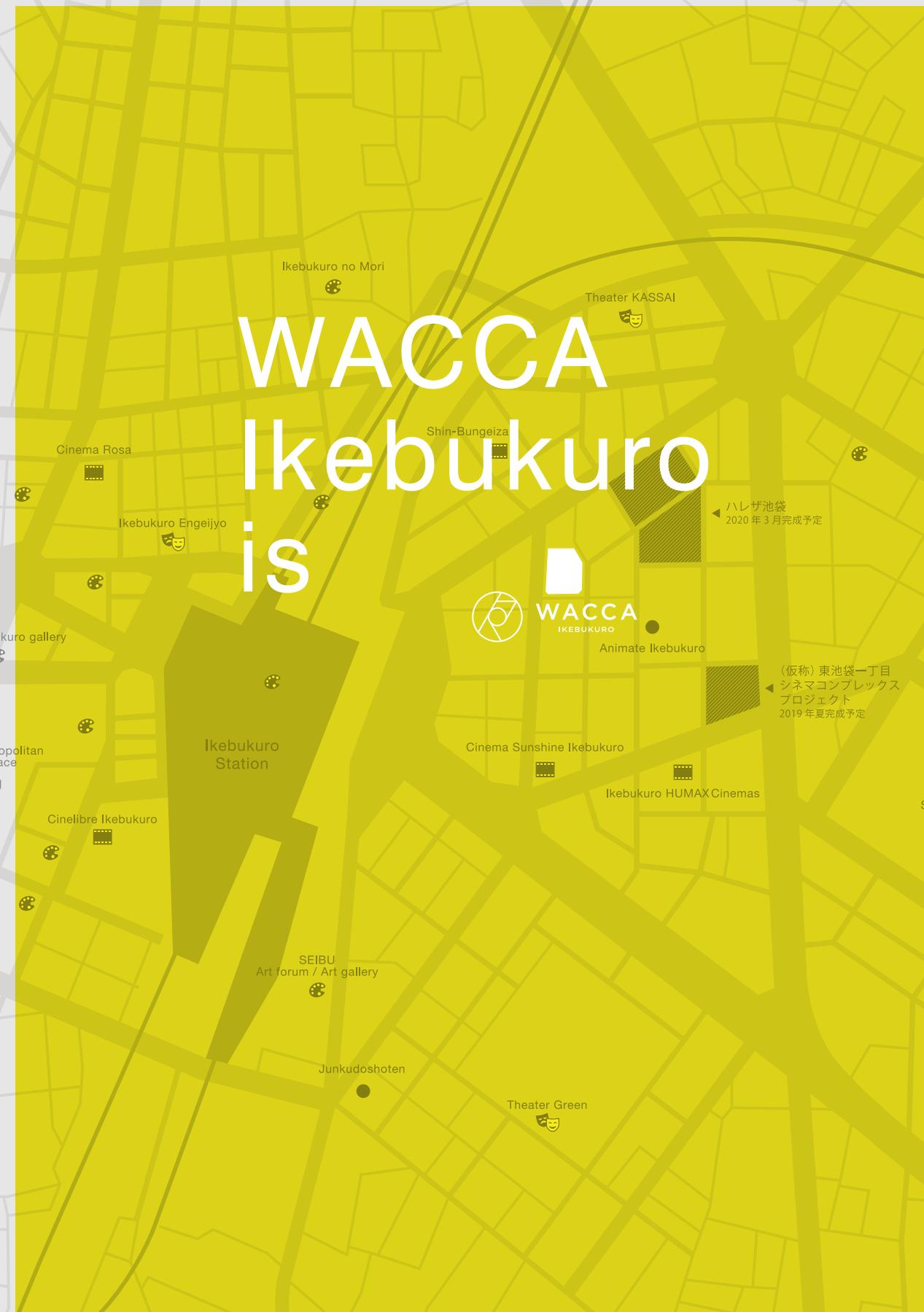


WACCA BOOK



WACCA
IKEBUKURO

- 003 TOP interview
- 007 つながりの WACCA
- 011 アート・カルチャー の WACCA
- 017 食 の WACCA
- 023 WACCA infomation



TOP INTERVIEW



100年後、 その時の人々に愛される商業施設を目指して 池袋の街と共に歩んでいきたい

祖父から受け継いだ東池袋のこの土地に、自分なりの賑わいの場を創っていかうと、3年前にコミュニティ型の商業施設、「WACCA (ワッカ)」をオープンさせた篠社長。他では体験できない価値のあるイベントや講座を通して、街の成長を促し、ワッカのさらなる魅力を感じてもらおうことが、この施設スタートの趣旨であると語っていただきました。

エンターテインメント事業から 複合施設へ

映画に興味があったので、卒業後は映画会社に就職しました。配属先は日比谷シャンテ開業のタイミングもあり不動産営業部。そこで仕事をするうちに「いずれ祖父から受け継いだこの土地で、自分なりの事業をするであろう」という具体的な思いを抱くようになりました。祖父は映画館やボーリング場などのエンターテインメント事業で街に賑わいをもたらしましたが、私は自分なりの賑わいを池袋の街に創りたかった。ワッカをスタートさせ、ここを「外とのつながりの場」にしたいと考えたのは、自分がコミュニケーションを図るのがあまり得意でなかったから。同時に、祖父が80年近く池袋で事業をしてきたので、さらに「街を成長させ、恩返しをしたい」という思いもありました。

ワッカの「ワ」は、人と人とのつながり。輪が広がっていく中で、新しい価値や消費が生まれるイメージです。そして単に物売るだけでなく、「場の提供」もしたいと考えました。1階部分の木の階段や各フロアのフリースペースは、お年寄りから若い世代まで、家でも職場でもないサードプレイスとして安心して使ってもらうのが目的です。街の延長が建築のコンセプトなので、建物の東口から入って館内を回遊し、公園側に抜けられるような有機的な動線を描きました。植物が成長するようにワッカに足を運んでくれる人たちも、街とともに有機的に成長して欲しい。その願いは、外観のデザインにも込められています。



アート・カルチャーを軸に 街を成長させたい

現在、豊島区は「国際アート・カルチャー都市構想」を掲げていて、アートによる街の活性化を進めています。今年3周年を迎えたワッカは、東池袋再開発エリアの中心に位置しており、街づくりの重要な役割を担っていると考えています。池袋駅西口の東京芸術劇場に加えて、2020年春には東池袋の公会堂や庁舎跡地からシネコンや劇場等を中心とした複合施設が誕生し、今まで以上に文化的な賑わいが増すことは間違いないでしょう。豊島区の中心である池袋の街が新しいスタートを切るわけですから、ワッカも芸術文化による多様な魅力を世界へと発信する場の一つとして、アート・カルチャーのイベント等を充実させて、街の発展につなげていく必要があると考えています。

また豊島区は、手塚治虫氏、赤塚不二夫氏始め多くの作家がトキワ荘で漫画の礎を作り、その源流が今のアニメ文化につながった、いわば漫画とアニメの聖地。ここから魅力的な作品が続々と生まれ、今や漫画やアニメは日本が世界に誇るサブカルチャーに成長しました。池袋東口にアニメイト池袋本店がオープンしてから、アニメ好きの若い女性やコスプレ姿の若者が増え、街の雰囲気少しずつ変わりました。今後、こうした若い人たちの動きが池袋の価値を上げていくのは間違いないでしょう。

ほかにも豊島区は12年前から「新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館」というイベントを開催しています。池袋の街のすべてをアートで埋め尽くそうという試みです。ワッカ自らが選んだアートを発信するに加え、こうした街ぐる

みの美術展に積極的に参加して、場の提供をすることも大事な取り組みと考えています。

伝えていくべき食文化を 「もうひとつの daidokoro」から

「もうひとつの daidokoro」は、ワッカ自食の提案をしていきたいという思いからスタートした直営のスペース。昼は「池袋のおうちごはん」というコンセプトで、あえてシェフを迎えず、豊かな食の知識を持つスタッフが、旬の有機無農薬食材を使い「働く人の健康ランチ」を手作りしています。小鹿田焼きを始めとした素朴で実用的な民主的工芸品、いわゆる民藝の器を使っているのも特徴です。

日本はかつて季節の食材と食卓が身近にある、ファームトゥテーブルでした。四季折々の食材を使うことが希薄になりつつある今、我々が徹底的にこだわっているのがこの素材との関係です。季節の食材は複雑に手を加えなくても十分に美味しく、体にもいいということをランチで体験し、夜は講師を招いて食に関する学びを深める。毎日苦勞して食事を作らなくても、シンプルに素材の美味しさを引き出す知恵を授けてくれる「お稽古ごと」という講座や、daidokoroのランチを家で作るための料理教室など、食を通じて人が出会い、実際に食べて学び、家庭に知識を持ち帰るといように、昼のランチと夜の講座には一貫したストーリーがあります。誰もが気軽に立ち寄れる場「もうひとつの daidokoro」で人と人がつながり、食のコミュニティが築かれ、そこから館のにぎわいにつながっていくことが私の願いです。

日本各地、 世界へとつながれる“場”を提供する

以前、里山料理人の北沢正和さんの講座の延長として、彼が営む長野県佐久の職人館に、遠足という名のツアーに行きました。里山で採れたきのこ料理を食べ、自家焙煎のカフェに立ち寄り、日本各地の生産者さんの思いを感じ、体験する、ワッカが掲げる双方向の取り組みです。参加者は食に対して同じような意識を持っている方が多いので、次の企画が自然に生まれ、思いを共有できるのが面白かったですね。他に、こけしの絵付け体験のワークショップを実施したことがあるのですが、そこから岩手や宮城に足を運びたいと思うきっかけを作るなど、ワッカが地方とのつながりを持てる場として機能していくのが理想です。今後はこうした取り組みを日本各地、さらには海外へと発展させていけたらと考えています。

また2019年開催の「東アジア文化都市」の国内候補都市に奈良や京都、金沢などに続いて豊島区が決定しました。これも大きな変化になると考えています。区の1500人余りの「国際アート・カルチャー特命大使」が「豊島区を世界に広くプロモーションしていきたい」という意思を、強く持っていたこと。さらに草の根的ですが、中国や韓国の子どもたちをホームステイで受け入れ、子どもどうしの信頼を築くことがいづれ国と国の平和につながるであろう、その思いが街の価値を上げたと思っています。

またこの年は「もうひとつの daidokoro」から、日本の食文化を発信するチャンスでもあります。例えば台所の無駄をなくす「MOTTAINAI」や、食べることに感謝の意味を表す「ITADAKIMASU」を世界へと広げ、日本の食の原点を知ってもらう良い機会となるでしょう。2020年のオリンピックの年に、このエリアも再スタートを切るわけですから、街の遺産、レジェンドになれるように、今後も努力を続けていきたいと思っています。



篠 栄一郎

MARO 代表取締役、栄真株式会社 代表取締役社長

1960年東京都生まれ。立教大学経済学部卒業後、東宝株式会社、不動産営業部勤務、日比谷シャンテ開発準備室を経てシャンテ営業管理室に勤務。

祖父の篠栄吉が昭和12年に池袋東口に映画館「日勝館」を開設したのを起源に現在に至る。2014年に人と人が繋がり、その輪が広がる中で新しい需要と消費が創出されるコミュニティ型商業施設「WACCA(ワッカ)池袋」を誕生させ、同時に日本の食文化を発信する場所として同館5階に直営の「もうひとつの daidokoro」をスタート。明るく、わかりやすく安心・安全をモットーに60年に亘り愛されてきた栄真パーキングはWACCA池袋地下に継承。



WACCA
Ikebukuro
is

つながり

つながりの WACCA

ワッカは、 街と、人とつながり、つながった輪の中で 新しい価値を創出する施設を目指しています。

ワッカは単に物を売る施設ではありません。ここに人が集い、人と人がつながることで、街の賑わいが生まれる、新しい価値が生まれる、そんな“場づくり”を実践しています。それは時に、発表の場であったり、五感を刺激する場であったりと様々です。今後も、街と、人と、日本の地域と、有機的につながっていくことで、魅力あふれる“場”として発展していきます。

つながりから新しい価値を創出する上で
施設運営やイベント企画のポイント、気にかけて実施していることは？

ワッカ運営室では、施設は真っさらなキャンバス、ステージ、器であるという考えから、すべての出店者や共演者を柔軟に受け入れ、サポートする姿勢で皆さまをお迎えしています。一人の作家も大企業もワッカの等しいパートナーです。ワッカという場を使って、この施設に足を運びたいという新しい動機を創出してもらいたい。これからもパートナーと共に価値あるサービスや情報を街に発信し続けてまいります。

館長 鈴木陽介



実施するイベントはどのようなポイントで
企画や選定をしているのですか？

お客様が「楽しい」「嬉しい」「美味しい」と感じ、笑顔になれるイベントを常に意識して企画、選定しています。集客よりも、少人数でも知識に出会えることが大事。家族や友達にワッカでの体験を伝えたいような、楽しいイベントや企画をこれからも提供していきたいと思っています。

館内にはさまざまなタイプのお客様を
お見かけしますが、特別な理由でも？

館内各所に自由にご利用いただけるWi-Fi完備の共有スペースを設けています。買い物にいらしたお客様はもちろんのこと、周辺のオフィスワーカー、学生さん、お子様連れなど幅広い世代の方に、館内でテイクアウトした飲み物を片手にゆったり過ごしてもらえよう、あえてフリー共有スペースを充実させた設計にしています。

地域へのイベント参加も多いそうですね？

現在、豊島区は池袋エリアを中心に、非常にエネルギッシュなイベントを多く開催しています。まだ、これから創り上げていく段階ということでご相談もいただきますが、まずはワッカができることとして、イベントスペースの提供や協賛のご協力、運営のお手伝いなどささやかではありますが、街づくりのために積極的に参加していこうと考えています。



WACCA 地域イベント

新池袋モンパルナス 西口まちかど回遊美術館

池袋の西口側のみならず、東西で約60箇所が参加する、池袋エリアを盛り上げる最大のアート・カルチャーイベント。アート活動により注力をしていくワッカは、2016年より参加。2017年は、東口側のメイン会場の1つとして、豊島区に拠点を置くアーティスト集団“C-DEPOT(シーデポ)”による『〜鉄腕アトム×C-DEPOT〜ぼくらのアトム展 in WACCA』を実施。アーティストの作品展示、ワークショップを行いました。今後、さらなるコラボレーション強化を行うための主体的な活動も検討しています。



“としま”豊かな食コンクール

「一人でも多くの区民が食に関する意識を高め、献立作り等を通して、望ましい食習慣の形成を図るとともに、生涯にわたり心身の健康増進と豊かな人間形成に役立てること」を目的として行われている、豊島区が主催するコンクール。ワッカ5階の「もうひとつのdaidokoro」をメニューコンクールの二次審査の会場として連携。このコンクールは、「学生の部」「高校生の部」の2つがあり、高校生の優勝メニューを「もうひとつのdaidokoro」で期間限定メニューとして提供しました。



池袋オータムカルチャー フェスティバル

豊島区の目指す“国際アート・カルチャー都市構想”の名のもとに、マンガ・アニメ・コスプレから伝統芸能まで、異なる民間企業が主催する4つのイベントが連携して同時期にお祭りを行い、池袋を盛り上げることが目的の池袋を回遊する秋の一大イベント。WACCAでは、2016年、オープニングセレモニー会場として、また、「池袋シネマチ祭」の前夜祭では、移動映画館「キノ・イグルー」プロデュースのシネマパーティーの会場として連携。池袋のアート・カルチャー発信基地としての役割を担っています。





WACCA
Ikebukuro
is

アート・カルチャー

アート・カルチャー の WACCA

ワッカは、池袋のアート・カルチャー発信基地です。

“国際アート・カルチャー都市構想”を掲げ、アート・カルチャーの国際拠点を目指す豊島区。その中心『池袋』に位置するワッカは、アート・カルチャーイベントの活動拠点として、発表の場として、また、アーティストとのコラボレーションや参加・体験企画など、アート・カルチャーの発信基地として、様々な企画・イベントを開催しています。

WACCA × アート

ワッカ池袋3周年 “笑顔ジャック”

ワッカ池袋の3周年を記念して、ANA60周年機体デザインや本の装丁など多岐に活躍する「笑顔の世界を広げるアーティスト」RIEさんとのコラボレーションを行い、施設の外壁から館内のあらゆる所をRIEさんのアートで笑顔ジャック。また、RIEさん自らが子供達と行うワークショップ「等身大の自分を描こう〜ワッカで笑顔がつながる〜」を実施しました。



WACCA × カルチャー

池袋でハワイ文化に触れる “ハワイアンキャンペーン”

ハワイ文化を日本に広め、日本にいてもハワイ気分を感じられる場所づくりを行う『ハワイ・ライフスタイル・クラブ (HLC)』とのコラボ企画として実施。同クラブのフォトコンテスト作品の掲出の他、TAMOのスケートボード展、“ハワイのグラミー賞”と言われる「ナ・ホク・ハノハノ・アワード」最優秀インターナショナル・アルバム部門で日本人として最年少で受賞した名渡山遼さんによるウクレレライブ等、多様な形でハワイ文化に触れられる環境を提供しました。



日本の伝統文化に触れる “風呂敷活用講座”

風呂敷文化研究家のつつみ純子さんをお招きし、風呂敷で日常をもっと楽しく豊かにすることをコンセプトに、日本の伝統文化と生活の知恵がいっぱいの“風呂敷活用講座”を開催。参加者に風呂敷を歴史、芸術性・実用性の両面からわかりやすく解説し、実際に触れてみて使う楽しさを体験していただきました。



日本を代表する国際アニメーション映画祭 “東京アニメアワードフェスティバル”

『東京がアニメーションのハブになる』を合言葉に、高いクオリティとオリジナリティに富む世界中の作品を東京で上映し、感動や刺激を糧にアニメーションの新たな波を東京から世界へ発信する、一般社団法人日本動画協会が主催し東京都が共催する国際アニメーション映画祭です。ワッカでは、2017年から豊島区で開催される同映画祭において、運営本部設置及びイベント開催やオフィシャルカフェ機能として参画。開催期間中に限らず、普及活動へも継続的に協力活動を行っています。



©TAAFEC. All Rights Reserved.



アーティスト応援プロジェクト

ワッカでは、施設を一つのキャンパスに見立て、熱意をもって制作に取り組むアーティストのインスピレーションに合わせて館内各所を発信の場として随時提供しています。

A. NijiSuke … 作品展示、グッズ販売
B. NICHIGEI PHOTO in WACCA … 日本大学芸術学部写真科学学生による写真展



笑顔の美しさをたくさんの人たちに 波紋のように広げていきたい

「笑顔世界に広げるアーティスト」RIE

右に江ノ島、左にダイヤモンドヘッド、そして中央には虹色の太陽が輝く。

ここ藤沢ティキーズは、昨年湘南に活動拠点を移したアーティスト RIE さんの作品が見られる場所。絵の制作に集中したいという理由から、都心を離れあえて知人のいない湘南を選んだ。

アートは見てくれる人がいて、 初めて作品になる

去年、活動の拠点を東京から湘南に移しました。当時、誰も友達がなくて、たまたま知り合った人に、この店のオーナーを紹介してもらったのが足を運ぶようになったきっかけです。その後、お店が9周年を迎える時に、お客さんそれぞれの得意分野を生かして何かしようという話になり、私は絵描きだったので、壁に絵を描かせてもらいました。

お店の壁画も同じだと思うのですが、アートは見てくれる人や、アーティストが発信するコンセプトに共感してくれる人がいるからこそ、その作品が生きてくるし、アートとして成り立つと思うんですね。いい絵が描けただけでは自分一人の自己満足。絵もアートですから外に発信して、誰かの目に触れて初めてその作品に命が入るといふか、作品の役割が果たされる。人がいないと成り立たないものがアートだと感じています。このお店の壁画は、人と人の繋がりから生まれたもの。見た人が見たままを、心で感じて笑顔になってくれたら嬉しい。人の心に響いて、初めてひとつの作品になるわけですから。



笑顔を広げる アーティストの理由

幼い頃から好きだった絵で、世界に笑顔を広げて行こうと思ったのはボルネオの貧しい村で出会った、一人の少女がきっかけでした。苦しみや苛立ち、自己嫌悪といった不満だらけの自分との出会いを、宝物と笑顔で語ってくれた少女。「こんな私でよければ、誰かの役に立ちたい」と過去を振り切る涙を流したその時から、私は再び絵で、世界に笑顔を広げていきたいと思いました。しかし、全てが順風満帆とは言えず、自信を失いかけた時期もありました。

ずっと描き続けている、母娘がハグをしている代表作があります。作品発表はこれが最後と決めた個展で、見ず知らずの女性がその絵の前で立ち止まり、突然泣き始めました。心配になって声をかけてみると、「たまたま絵が目に入って見ていたら、涙が止まらなくなってしまった。笑顔の絵なのに、なぜこんなに涙が溢れてくるのかわからない。けれど、自分の中で何か忘れかけていたものを思い出させてくれた感じがする。」と語ってくれました。運命と言うべきなのか、画家として辛い時期にその人の心に何かが届いた瞬間に立ち会えました。「自分がやりたい事って、こういうことなんだ。」



心が動くきっかけをアート通して作っていききたいんだ」と確信できた出来事でした。こうして絵描きを辞めずに前へ進むことができ、再び頑張ろうと思える力をもらいました。

よく人は「RIEさんの絵を見ていると心が温かくなります。笑顔になります」と言ってくれます。でもその笑顔は私がその人からもらったもの。人からもらった笑顔や人の温かさが私の中を巡って絵となって、絵を見てくれた人の心が温かくなるという笑顔の循環があるから、ずっと描き続けられる。自分のためだけに絵を描くのだったら、すごく苦しい世界だと思いますね。さらに「誰かの役に立ちたい、笑顔になってほしい」という思いがベースにあるのも、頑張れる理由だと思います。

まずは一番身近なところから 笑顔の波紋を広げていきたい

マザーテレサの書籍の絵を手がけたことで、より多くの人に作品を見てもらえる機会が増えました。マザーの言葉で「遠くの人を愛するのは簡単ですが、愛は家庭から始まるのです。」とありますが、笑顔もまずは家族から。一滴の水の波紋が外へと広がっていくように、一番身近な家族から親戚や友達、仕事関係の人たちへ笑顔を広げていく。今回「笑顔の集まる場所」をテーマに、ワッカの建物を笑顔ジャックするのですが、建物にある私の絵を見て笑顔になって、家に帰って家族が笑顔になったら、池袋の街も笑顔で溢れますよね。私一人が世界中に何かを投げかけても無理なのですが、絵を通して、身近な人から笑顔を広げいくことはできます。それが、私がうたっている「世界中に笑顔を広げるアーティスト」の意味だと思っています。

また今は、デジタルで何でもできてしまう時代ですから「見てください」だけの一方的な発信はもう古いと思うんですね。これからはワッカでも参加型の、誰もが気軽に関わられるアートイベントなどができたら面白いですよね。関わられるアートはまだまだ少ないので、アーティスト自らが閉じている世界を開いて、間口を広げる努力もしていきたいと思っています。

ボルネオで少女に出会って人生の決断をし、絵描きになって10年。紆余曲折はありましたが、ANA機体コンテストで大賞に選ばれ、「ゆめジェット」は「世界に笑顔を広げる」という夢を乗せて飛びました。そして今もアートを通して、心が動くきっかけ作りをしていきたいという思いは変わりません。人の言葉に傷ついたことは多いけれど、人に助けられ、人がいないとアートは成り立たない。絵しか描けないけれど、これからもその絵で笑顔の波紋を広げていきたいと思っています。

取材協力：「Hawaiian DINER 藤沢 Tikiz」 <http://fujisawa-tikiz.com/>



笑顔中に世界に広げるアーティスト RIE

1982年 大阪府堺市生まれ（現在、神奈川県藤沢市在住）

2002年 京都嵯峨芸術短期大学 陶芸学科卒業

2005年 マレーシア、ボルネオ島で出会った少女の言葉と笑顔に心打たれ、人生が一転。転職後「心の豊かさ、人の温かさ」を世界に広げるべく、笑顔をテーマに絵を描き始める。

主な活動と受賞として、ANA60周年機体デザインコンテスト大賞受賞、日本テレビ「おしゃれイズム」スタジオアート作品、関西テレビ開局55周年記念生放送出演及び巨大モザイクアート制作、小金井市立「さくら保育園」卒業制作壁画指導、サラヤ株式会社デザインボトルデザイン担当、主な書籍として「愛をうけた日」（学研パブリッシング）、世界で一番たいせつなあなたへ—マザー・テレサからの贈り物—、あなたのままで輝いて—マザー・テレサが教えてくれたこと—、「ほんとうの自分になるために—マザー・テレサに導かれて—（全てPHP研究所）

公式HP：<http://www.mongara-art.com>

FARM TO TABLE



WACCA
Ikebukuro
is



食のWACCA

ワッカは、 食を通じたコミュニティづくりを行っています。

季節の食材と食卓が身近にある、ファームトゥテーブル。

かつての日本の当たり前を「もうひとつの daidokoro」で取り組んでいます。

ここでは、食を通じて人が出会い、実際に食べて学び、家庭に知識を持ち帰る“場”。

この“場”から、池袋を中心とした都市生活者の食の未来を考え、様々な縁をつないでいきます。



昼は、池袋の台所のおうちごはんを。

もうひとつの daidokoro 豊作野菜ランチ

有機・無農薬野菜を中心とした野菜のお惣菜のワンプレートに、おかわり自由のサラダやご飯、具沢山のお味噌汁、漬物のランチメニューです。調味料やソースも手作りしているから、安心・安全にお子様からご年配のお客様まで美味しくお召し上がりいただけます。

夜は楽しく、エシカルに学ぶ。

家庭料理教室から、ガストロノミー、フードロスの問題提起まで「食」にまつわるイベントや講座が盛りだくさん。



もうひとつの daidokoro

5階「もうひとつの daidokoro」は、イベントスペース、キッチンスペースとして貸し出しております。

○申し込みは、予約サイトから
<http://daidokoro.peatix.com> / Tel. 03-6914-0588

<http://daidokoro.wacca.tokyo>



「もうひとつの daidokoro」の取り組みが、地域・コミュニティづくり/社会貢献活動の部門で、2017年度グッドデザイン賞を受賞しました。

WACCA 食イベント



土井善晴先生

一般社団法人おいしいにっぽん主催の「土井善晴のお稽古ごと」は定番の人気講座。旬の一汁一菜を学びます。



北沢正和先生

里山料理の第一人者北沢正和さんの「日本の味の原点『再考』」では、当たり前に使っている調味料と在来種の旬の食材について通年を通して学べる講座でした。秋には遠足にも行って来ました。



川手寛康シェフ

フードロスは、daidokoro が普段から取り組む課題ですが、食にまつわる「エシカル」について語る講座も定期的に開催しております。



山本彩香先生

琉球料理で有名な、山本彩香先生の「食べることはめちぐすい」を開催。心に響く優しいお味の琉球料理を学びながらお話を伺う講座です。



さいたま農業女子

埼玉県内で活躍する女性農業家のグループ「さいたま農業女子」が主催する食イベントをバックアップ。女性ならではの視点で提供されるメニューは、高い評価をいただいております。



食をテーマにした地域イベント

ワッカでは、日本の地域の食イベントも積極的に開催。試食販売会やクッキング教室、地酒イベント、地域や特産品のPRなど様々な企画を実施しています。

池袋の食のローカルコミュニティを目指す

「もうひとつの daidokoro」は、池袋の食のローカルコミュニティを目指し、池袋駅に乗り入れる沿線で活動する方々を応援したい、沿線の生産者との取引を積極的にすすめるこの地域の農業振興に貢献したい、デモンストレーションを可能にするオープンキッチンの設備を活かした、食の発信や活動にも積極的にかかわっていききたい、と考えています。



生産者さんとの信頼関係も厚く、 安心安全、母の様な愛情で献立を日々お届けする

石澤晴美

もうひとつの daidokoro 料理長

「もうひとつの daidokoro」の料理長を務める石澤さんは、いつも笑顔を決やらず即行動、お客様、そしてスタッフから「ハルさん」と呼ばれ親しまれています。オープニングスタッフとして「もうひとつの daidokoro」に参加し、リーダーとして活躍してきましたが、2年目に入ると同時に調理長に就任しました。元々、大の肉好きだったハルさんですが、重度のアレルギーを発症してしまい、それ以来、大豆や植物性タンパク質のレシピ研究に情熱を費やし、美味しさと健康に配慮した大豆ミートの献立を得意としています。埼玉を中心とした生産者さんとの信頼関係も厚く、安心安全、そして母の様な愛情で献立を日々お届けする「もうひとつの daidokoro」のシンボリック存在です。

武蔵野の志の高い農家さんの一助となり 地域の農業振興に貢献していきたい

田下隆一さん

風の谷ファーム（埼玉県小川町）

中澤健一さん

里山スマイルぐるぐるファーム（埼玉県ときがわ町）

池袋駅に乗り入れる鉄道各社の沿線には、江戸のころから庶民の台所を支えてきた武蔵野の農地が数多く存在し、現在でも農家さんが丹誠込めて野菜やお米を育てています。中でも埼玉県比企郡小川町の「風の谷ファーム」代表の田下さんご夫妻は、1990年代前半から、エネルギーの自給とともに有機栽培にとりくみ、このエリアの持続可能な農業を牽引してきたパイオニア的存在です。「里山スマイルぐるぐるファーム」中澤さんは、田下さんの環境を重視した農業の理念に影響を受け、研修生として田下さんの薫陶を受け、隣町のときがわ町に独立しました。このお2人のような武蔵野の志の高い農家さんより届く野菜は、形もサイズもバラバラですが、味はもの凄く美味しい。規格に合わない野菜は売れないという理由から、B級品として安く売られるか農家さんが自家消費しますが、この様な季節の野菜を積極的に届けていただく事で、沿線の農家さんの一助になればと思っています。



子育て中のママの生の声を活かし 安心して食事が楽しめる様な環境づくり

三浦明美さん

ママ友グループのリーダー（豊島区在住）

「もうひとつの daidokoro」が提供する毎日食べられる飽きのこない安心安全なお昼ごはんは、健康と食事に関心が高い方、近隣のオフィスにお努めの方、そして、子育て中のママに評価をいただいております。特に育児休暇中のママは、赤ちゃんともママ自身の栄養を考えながらも、復帰に向けた社会との関係作りと大忙し、休暇の期間にも限りがあるため、本当に大変です。そんな「ワーママ」をはじめ、子育て中のママが、気軽にベビーカーで来店出来、安心してママも赤ちゃんも食事を楽しめる様な環境づくりに取り組んでいます。子育て中のママに優しいお店づくりについて模索中だった頃、三浦さんとの出会い、ママ友の仲間を集めていただき、ママが安心して来店するためのインタビューを行った際に、沢山の生の声をいただき、お店の改善に活かしてきました。お客様の生の声が一番の「宝」、その意味でも三浦さんとの出会いはとても幸運な出来事でした。



地元ゲスト

食・健康意識の高い
30~50代女性
ママと妊婦さん

もうひとつの

daidokoro

地元生産者

東武・西武線沿線
埼玉南部沿線に集約

地元
インフルエンサー

地元企業・地元メディア
コミュニティリーダー
ママ友

埼玉県内で活躍する 女性農業家のグループをバックアップ

貫井香織さん

さいたま農業女子 リーダー / 貫井園 代表

さいたま農業女子は、埼玉県内で活躍する女性農業家のグループで、その代表を務める貫井さんは埼玉県入間市でお茶と椎茸を生産しています。自らの農業生産の他、百貨店やマルシェなどのイベントの他、農水省のプロジェクトでは、アジアや北米などで、日本代表として農業PRでも大活躍している女性農業家です。「もうひとつの daidokoro」では、昨年・今年と2回、さいたま農業女子が主催する食イベントをバックアップしてきました。女性ならではの視点で提供されるメニューは、農家の賄いごはんや女性フレンチシェフがつくるフランス料理として提供されとても高い評価をいただいております。



SUSTAINABLE DESIGN



安心してくつろげる 街の居間を目指して

WACCA IKEBUKURO (ワッカイケブクロ) は、地上8階地下4階建ての、サステナブル(持続可能)を目指した環境配慮型施設です。外観デザインは、「つながり」をテーマに、木洩れ日が差す居間の様な憩いの場所を目指し「つながったすべての人とともに成長する」リーフ(葉)をモチーフにしています。1階から4階までの吹き抜けは、光の色温度と明るさが時間により変化し、豊かな表情を生み出します。平面形状と、各階を繋ぐ吹き抜け空間が積み重なる事で、館内を歩くごとに発見が生まれる変化に富んだ空間。明るく開放的なワッカのつながりを表現しました。



世界一ハッピーな駐車場

B2F-B4F

WACCAの駐車場は、ループ状に下がる構造。

「明るく」「文字が大きく」「わかりやすいサイン」「感謝の気持ち」をコンセプトに、

地下B1からB4に併設する駐車場は、ご使用いただくお客様にハッピーを感じていただくための仕掛けを盛り込みました。

駐車した場所が、覚えやすく見つけやすく階層ごとに色別に分けた柱には、

写真家澤野新一郎氏の太陽をモチーフにした写真で、地下という閉塞感から解放しています。



営業時間：24時間・年中無休 / 収容台数：100台 / 駐車料金：終日30分/350円 / 入庫後24時間最大2,100円

レンタルスペース

1F.2F.4F

当施設では「コミュニティ※」をキーワードに人と人がつながり、

その輪が広がる中で新しい需要と消費が創出される商業施設を目指しております。

価値のある経験や生活のヒントが得られる体験、情報、皆さまにお届けしたい商品を是非、WACCAから発信していきましょう！

※WACCAの「コミュニティ」は、義務的なつながりや同調ではなく自立した人と企業が自由に連携していける開かれたコミュニティを目指します。

お問い合わせ・お申し込みは、WACCA IKEBUKURO 運営室まで

STAGE



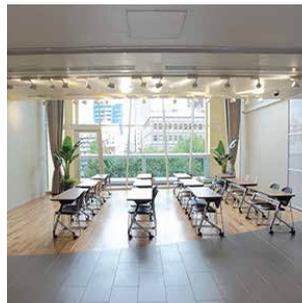
ENTRANCE



STADIO



GALLERY



Access

* 電車でお越しの方
各線池袋駅東口より徒歩3分

* お車でお越しの方
首都高速5号池袋線「東池袋」出口より5分

WACCA IKEBUKURO 運営室

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-8-1

tel: 03-6907-2853 (代表) e-mail: info@wacca.tokyo

<http://wacca.tokyo/>

ikebukuwacca

ikebukuwacca

LINE@

